

会 報

新 春 号

《第375号》



目 次

- | | | |
|--|-----------------------------|------|
| 1 新年ご挨拶 | 会 長 瀬戸本 淳 | 1頁 |
| 2 平成29年新春メッセージ | ～兵庫の未来を切り拓く～
兵庫県知事 井戸 敏三 | 2頁 |
| 3 新年ご挨拶 | 役 員 一 同 | 3頁 |
| 4 会員レポート『歴史、文化、産業遺産を活かした欧州のまちづくり』（第7回） | 神鋼不動産(株)常任顧問 川端 宏幸氏 | 4～5頁 |
| 5 会員レポート『鉄道博物館よもやま話』～愛称にまつわるエトセトラ～ | (株)岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏 | 5～7頁 |
| 6 お知らせ、広報コーナー | | 7～8頁 |

平成29年1月1日



次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人**兵庫県建築会**



新年ご挨拶

会長 瀬戸本 淳

明けましておめでとうございます。

兵庫県建築会及び関係団体の皆様におかれましては、益々のご発展、ご活躍のご様子、心よりお慶び申し上げます。

兵庫県建築会は、創立 70 周年を迎えることができました。

ご存知のように、あの第二次世界大戦の中、各種の建設資材が統制下にあった時代において、資材の円滑な流通と、代用資材の研究・開発を目的として、兵庫県の指導のもと、建築各界の指導的立場ある方々を中心に会が形づくられました。そして戦災復興の兆しがレールに乗ろうとしている昭和 22 年 3 月に建築会が設立されました。

設立以来、先輩諸兄の皆様は官民協力により、明日の建築に向かって街づくり、住まいづくりの研究と談話により、情報交換の場として活動を続け、建築界に大きな功績を残して来られました。特に阪神・淡路大震災の発生以降、一貫して兵庫・神戸の復旧・復興や、豊かな交流が広がる地域づくりに多大な貢献をされてこられました。心より深い敬意と尊敬の意を表したいと存じます。また関係各位のご努力に感謝申し上げます。

昨年は熊本、鳥取をはじめ、あちらこちらで地震が発生し、火山が爆発し、台風など激しい気象に怯え、つくづく災害の多い国だと思わせる 1 年でした。また、建築業界においても、人材不足が深刻化し、現場での職人さんの高齢化に加え、若年層離れも強く、先行きの不透明感が増している厳しい状況が注目されました。

このような先の見通せない時代であるからこそ、日本において、とても貴重な存在である、この建築会のアーキテクチャル・ヒューマンネットワークの連携が、諸問題解決のための手法を生み出すのに大いに役立つことと考えています。

先日、神戸市三宮地区では再整備基本構想などもまとめられ、5 ヶ年行動計画も示されました。兵庫県の各地で進められている美しい景観づくり、街を楽しみ、みんなで交流する賑いの場づくりなど、生活の中での好奇心に満ちた、生きがいのある、そしてワクワク感のある社会インフラづくりが私たちの使命に違いありません。

ぜひ皆様と共にこれからの社会についての考察と構築を共有してさらに深め、安全安心のまちづくりに貢献していこうではありませんか。

今後も開かれた兵庫県建築会に一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



～兵庫の未来を切り拓く～

兵庫県知事 井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

近年の世界協調の流れが、今年、大きく変わる可能性があります。特にアメリカの新体制の動きやイギリスのEU離脱交渉、原油等資源価格の動向、これらに伴う為替の不安定化などが懸念されます。先行きの不透明感が高まる中、いかなる情勢の変化にも対応できるよう、足元を固めなければなりません。

国内では、少子高齢化に対応した社会システムの構築が待ったなしの課題です。日本全体の活力を低下させる東京一極集中にも歯止めをかける必要があります。

人口が減少し、少子高齢化が進もうとも、安定し、活力を保ち続ける地域を創っていかねばなりません。地域創生の取組を軌道に乗せていくことが今年の県政の大きな課題です。

第一は、安全安心の確保。福祉、医療の更なる充実により、2025年問題に挑み、安心して暮らし続けられる地域を創りましょう。防災・減災対策を着実に推進し、来るべき災害への備えに万全を期しましょう。

第二は、県民の活躍促進。高齢者、障害者、女性、若者などすべての県民が能力を発揮できる環境を整えるとともに、教育の質を高め、ふるさと人材の確保を進めましょう。

第三は、産業の活力増進。更なる企業集積に取り組み、新事業展開や起業を後押ししましょう。また、農林水産業を成長産業と位置づけ、イノベーションを興しましょう。

第四は、交流の拡大。交流人口の増加で地域に賑わいを生み出しましょう。兵庫五国の多様な資源に磨きをかけ、国内外から人が集う地域を創りましょう。

1868年の兵庫県発足から150年の節目の年が近づいてきました。

今こそ、これまでの兵庫の歩みを振り返り、次の一步の足がかりとなる新たなビジョンを描くときです。そして、県民の皆さんの夢と地域への思いを結集し、兵庫の未来を切り拓く。さあ、新しい地域づくりのステージへ、ともに一步を踏み出しましょう。

ふるさとの 発展めざす 地域づくり 一人ひとりの 決意に依らん

謹賀新年

2017

旧年中は当会の事業運営にあたりまして、会員及び関係者の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年は創立70周年を迎えます。一層のご支援ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

平成29年元旦

名誉顧問	竹太	村田	章敏	郎夫	会副	會長	瀬戸	本邦	淳夫	参	与	渡	邊	勝	幸
顧問	北浪	田南	敏正	邦雄	副會長	長	石大	田町	邦勝	幹	事	川木	端村	宏利	幸光
	小井	南垣	昭利	人裕	専務	理事	大谷	木弘	惠夫			勝西	野内	聡一	郎高
	小川	林嶋	仲芳	実明	理	事	岡山	本澄	康一郎			田小	中寺	茂忍	雄夫
	高田	橋代	亮三	信三			平和	井田	保好			瀨前	尾川	泰武	一郎
	山棚	本田	肇		監	事	北矢	浪間	孝照			本宮	井崎	真敏	雄一
							河石	野田	潤恭			池谷	内口	健修	樹
							立花	花	充					正	

— 役員一同 —



会員寄稿

『歴史、文化、産業遺産を活かした欧州のまちづくり』 (第7回)

神鋼不動産(株) 常任顧問 川端 宏幸氏

アムステルダムの市街地の北部のエイ湾に展開する新市街地を紹介するに当たり、まず、アムステルダムの都市計画について説明します。

「黄金の17世紀」の後、19世紀には鉄道が敷かれ、河口部に中央駅が建設された。また、エイ湾に東部港湾地区が1874年から1927年に開発され、新たな反映の時代を迎える。



▲上部着色した左がジャフ島、右がKNSM島
その下がスポーレンブルグ島とボルネオ島

しかしながら、1970年代にはインナーシティ問題が深刻化し、1996年に策定されたマスタープランにおいては、コンパクトな限られた空間において、居住、ビジネス、オフィス、サービス等の機能を効率的に集中させるとともに、公共交通の利便性が土地の集中的利用と高密度開発を誘導することから、新たなバスやトラム、地下鉄の開発による公共交通の定着を示唆した。

東部港湾地区は、中心市街地から2 kmにあり、A10環状道路に近接している。1975年に再開発が議決され、郊外住宅地としてではなく、中心市街地の延長に位置づけられ、都市機能とアクティビティの混在を実現し、騒音等の公害のない都市居住環境の形成を目指している。



▲ KNSM 島

1期は家畜市場のあったアントレポ港跡地での低所得者層向けソーシャルハウジングの計画であったが、1986年に分譲住宅や補助のない賃貸住宅に方向転換した。

1989年に始まった第2期のKNSM島計画は、ヨー・クーネンが全体のマスタープランを作成し、KNSM島の東の先頭部にヨー・クーネン自ら設計した円形の集合住宅が1995年に建てられ、この島のランドマークとなっている。各住戸とも玄関部分は緑豊かな中庭に面し、外側のバルコニーは、海に展望が開けている。



▲ ヨー・クーネン設計の集合住宅



▲ 緑豊かな中庭

円形の住棟が組み合わせられた配置のバルセロナというベルギー人ブルーノ・アルベルト設計の集合住宅がある。円形の住棟の中庭部分は、凹凸のある列柱が立ち並び、海に開ける部分は優雅な模様のフェンスとなっており、住棟に面するマリーナの様子が窺える。



▲ 集合住宅バルセロナ



▲ 中庭から海を望む

その西の波打ち際には、ピラエウスというドイツ人建築家ハンス・コルホフとルリスチアン・ラブ設計の集合住宅がある。1994年の竣工で、かつて船会社の職員用の食堂などが入っていた歴史的な建造物を中心に、ギャラリーや中庭があるなどユニークな形状をしている。



▲ 集合住宅ピラエウス



▲ 海辺からピラエウス（右）を望む

KNSM島の西にある第3期のジャワ島は、ショルド・ショータースのマスタープランによる開発であり、4つの運河沿いに、旧市街の歴史あるレンガ造りのカナルタウン(運河に面した細面の家々)の現代版が誕生した。このカナルタウンは、すべて間口4.5mの4～5階建てであるが、19名の若手建築家により個性的なデザインに設計されている。

次回は、スポーレンスブルグ島とボルネオ島について報告します。

会員寄稿 『鉄道博物館よもやま話』② ～愛称にまつわるエトセトラ～

㈱岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏

予定(順番)を変更して、列車の愛称について収蔵物とともに説明しましょう。建築会の皆さんが京都博物館で関心をもっておられたのは「愛称」「軌間」「お召し列車」「メーカーズプレート(意外!)とナンバープレート」など多岐にわたった。

1929年、東京下関間特別急行列車につける愛称を一般公募したとき5,600通の応募がありその1位に輝いたのが「富士」である。画像は特急初のトレインマークである。FUJIからHUZIに表記された経緯があるのも時代背景だ。

1位「富士」 2位「燕」 3位「櫻」 4位「旭」
5位「隼」 6位「鳩」 7位「大和」 8位「鷗」
9位「千鳥」 10位「疾風」 以下続く。

思えば、その多くが後年、特急用の愛称に採用され、現在新幹線の愛称として昇格したものばかりである。猛禽類である隼がやさしい響きの鳩・鷗・千鳥を抑えて上位に出たのは日本が軍国だった影響であるとみえる。

不採用ながら「弥次喜多」というウィットにとんだものまであったらしいが、平成のJRなら採用されていたかもしれない。当時の懸賞は旅行案内書であった。



「富士」トレインマーク

敗戦後の混乱から復活した特急は1949年「へいわ」の愛称で東京大阪間に登場した。同年、国鉄は運輸省から独立して公共企業体となり年始早々に特急復活の方針を明らかにしている。

新生国鉄としては下山総裁の轢死(下山事件)・三鷹駅での無人電車暴走(三鷹事件)・列車妨害による転覆事故(松川事件)と組織改革の嵐の中で物騒な事件が連続し、戦前の「富士」「桜」のような

のどかな愛称をつける気にもならず平和を望む一心でそのように名付けられたと見える。近年惜しまれて消えた愛称「銀河」も同時期に登場している。

東海道夜行天体シリーズに先鞭をつけた。これら愛称も公募であり 158,600 通も集まった。当時の物価で 1 万円という法外な賞金額の影響もあったのだろう。



「へいわ」トレインマーク

1950 年代に入れば、愛称の由来は自由なものへと移ろい量産時代を迎える。

新婚列車とまで言われた熱海行準急「いでゆ」「いこい」などいい例だ。

1956 年東京博多間特急の愛称として「あさかぜ」を採用して爽やかにイメージを刷新。1958 年の東京神戸間の特急一般公募で「こだま」が 93,000 通の中から選ばれた。初の電車特急は東京大阪間 6 時間 50 分。日帰り出張可能だから「こだま」というわけである。専用に新製された 151 系電車が人気であったが稀に 151 系の代走として急行型 153 系が仕立てられたことがあった。この場合「かえだま」と揶揄された。

「あさかぜ」
トレインマーク



「こだま」151 系

1961 年の白紙ダイヤ改正で特急 26 往復・急行 113 往復・準急 224 往復と大增発された。この時期になれば愛称命名の原則も初期と異なり、特急は風格を重んじて「観光宣伝のような愛称はご法度」だったのが宇野へ向かうのに「うずしお」を名乗るなど、かつての不文律は崩れ、日本の鳥や花シリーズにもネタが尽きたとみえる。

急行はもろに旧国名や観光地名。準急はさらにローカル色を強めて。夜行は天体。と、一応の基準はあったがネーミングだけでは見当がつかないのが増殖した。

修学旅行専用列車にも愛称はつけられた。首都圏の中学生専用車が「ひので」。阪神間の中学生向けが「きぼう」。ご記憶の方もいらっしゃるのだ。

専用設計の 155 系は、それまで列車確保が難しかった中学生にとって最高の贈り物だった。新幹線開業後は、体格の向上と帰路の車中泊が敬遠されたことで勤めを終える 1972 年まで実に 13 年間で 400 万人を運んだ。



155 系模型

愛称は旅客列車に限らず、高速貨物列車にも及んだ。1959 年、汐留梅田間「たから」（梅田汐留間は「西たから」と命名）が先鞭をつけた。



ヨ 5000

特急の風格というのも在来線時代の「こだま」1 等車に乗ろうものなら東京大阪間で当時の運賃で 6,180 円。2016 年の貨幣価値に換算すれば 47,500

円に相当するから、いくら1等とはいえ如何に高かったかということだ。又当時の社会の中心で活躍する人々は、戦前の身分制度を学校教育において学んでいるので国鉄の特急は選ばれた人だけが乗るもの、という概念があった。お金があるから「ななつ星 in 九州」に乗るといふ現代とは世の中のあり方が違っていたのだ。

次回は、「列車の愛称」について東海道新幹線開業前の様子からふれてみましょう。



在来線「こだま」と大阪駅。大阪駅の次の駅が東淀川であることが懐かしい。

お知らせ

◎ 創立70周年記念式典・祝賀会ご案内

ご案内のとおり下記により創立70周年記念式典・祝賀会を開催いたしますので、万障お繰り合わせの上ご出席につきましてご配慮よろしくお願い申し上げます。

なお、受付、クロークの混雑が予想されますので、余裕をもってお越くださるようお願いいたします。

- 開催日** 平成29年1月12日
会場 神戸三宮東急REIホテル
第1部 記念式典 (17:00~18:00)
 開会
 式辞
 来賓祝辞、表彰
 建築会の歩み報告
 永年会員表彰
第2部 記念演奏会 (18:00~18:25)
 チェロとギターの調べ
第3部 祝賀会 (18:35~20:00)

◎ 行事案内

○ 平成29年2月月例会

日時 平成29年2月16日(木)
 12時から14時

会場 西村屋和味旬彩

テーマ『地域力で創る環境先導社会“豊で美しいひょうご”の実現』

講師 兵庫県農政環境部環境創造局
 局長 遠藤 英二氏

2月の月例会は環境問題です。これまで様々のジャンルから講師をお招きしてきましたが、今回は初めて兵庫県の環境政策の要である環境創造局長をお招きして講演をいただきます。

○ 平成29年3月月例会

日時 平成29年3月14日(火)
 12時から14時

会場 神戸三宮東急REIホテル

テーマ「旅行会社に明日はあるのか」(仮題)

講師 山手大学 准教授 山本 健氏

◎ 事務局だより

○ 新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

早々に、兵庫県知事、神戸市長、県・市幹部、関係団体の代表をお招きして70周年記念式典を執り行います。会場満席の120名余のご出席となり大変感激しているところです。式典当日は何卒よろしくお願い申し上げます。

○ 今年の干支は「酉^{とり}」。本来の読み方は「ゆう」。酒を醸す器を表したもので、酒の元の字。収穫した作物から酒を抽出する、収穫できる状態であることから成熟した状態を表し、酒、酢、酸、発酵、醤油に用いられている。この十二支を分かりやすく動物で表したのが「鶏」であり、決して「鳥」ではない。

ニワトリは弥生時代に中国大陸からの伝来で、食用ではなく「時告げ鳥」が主な利用。文献上の登場は「古事記」で、天照大神が隠れた天の岩屋戸から呼び戻すために「常世長鳴鳥」(とこよながなきどり)を鳴かせたとある。太陽を迎えることから神聖なものとされてきた。

以上はネット情報の抜粋で、久しぶりに古事記の「天の岩屋戸こもり」を開いてみました。大神を呼び戻すため岩屋戸の前で様々な善後策を講じ、「常世長鳴鳥」を集めて鳴かすことから始まり、最後に天宇受売命、天手力男で太陽の復活となります。

本年が、70年の熟成の時を経て光輝く年であることを心より祈念します。

事務局 : 谷 純夫、石井滝実子
 電話 : 078-996-2851
 FAX : 078-996-2852
 Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

フェニックス共済は兵庫県が条例に基づいて実施する「安全」・「安心」の制度です。

フェニックス共済の概要

住宅再建共済制度

加入者	県内に住宅をお持ちの方
負担金	年額1,500円
対象	県内に存在する住宅
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 全壊で購入・補修 600万円 大規模半壊で購入・補修 200万円 半壊で補修 100万円 半壊で修繕 50万円 半壊以上で修繕・購入・補修などを含む、被災住宅に 入居した場合など 10万円 (居住費補助金)

家財再建共済制度

加入者	県内に住宅をお持ちの方
負担金	年額1,500円
対象	県内に存在する住宅にある家財
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 全壊で購入・補修 50万円 大規模半壊で購入・補修 35万円 半壊で購入・補修 25万円 床上浸水で購入・補修 15万円

一部損壊特約

加入者	住宅再建共済制度加入者のうち希望される方
負担金	年額5,000円(住宅再建共済負担金に追加)
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 一部損壊(損害割合10%以上20%未満)で修繕・補修・修繕・大規模 一部損壊(損害割合10%以上20%未満)で修繕・補修・修繕・補修 10万円 (居住費補助金)

※ 県内の地震・震動の発生は125.6cm以内とする。

※ 県外で被害・被災の場合は、300万円以内とする。
 ※ 県外で被災については、その被害額が加入できるまでの、その被害額を認めます。
 ※ 0歳未満の子供が被災した場合は、その被害額を認めます。
 ※ 0歳未満の子供が被災した場合は、その被害額を認めます。

住宅再建共済と家財再建共済の同時加入や、複数年一括支払い加入(3・5・10年)により割引があります。詳しくは下記までお問い合わせください。詳しくは下記までお問い合わせください。

下記宛てにお電話いただくか、この用紙に記入しFAXをお願いします。

(ご希望に印)
 加入したいので詳しく説明してほしい () 願
 () 月 () 日 () 曜日 () 願
 申込用紙をFAXを送ってほしい () 部
 (お名前) フリガナ _____
 (ご住所) 〒 _____
 TEL: _____
 FAX: _____

公財 兵庫県住宅再建共済基金(コールセンター)
 ☎078-362-9400(平日9:00~17:00)
 FAX078-362-9405 フェニックス共済 募集

～兵庫県が提供する「住まい再建のしくみ」～
 兵庫県住宅再建共済制度

フェニックス共済



大きな給金が大きな安心

- 1 年5,000円で最大600万円
- 2 簡単な加入!迅速な給付!
- 3 他の保険・共済と関係なく加入・給付

県内に住宅をお持ちの方の住宅再建共済制度
 年額5,000円で最大600万円の給付

県内に住宅をお持ちの方の住宅再建共済制度
 年額1,500円で最大50万円の給付

さらにパソコンで追加加入できます! **プラス**
 住宅再建共済制度に上乗せ加入でもっと安心!
 ※一部損壊特約のみにご加入いただくことは出来ません。

住宅再建共済制度(一部損壊特約)
 年額500円で補修等に25万円の給付
 ※損害額が10%以上20%未満の被害を認める。

全壊	年額5,000円で最大600万円
大規模半壊	年額5,000円で最大200万円
半壊	年額5,000円で最大100万円
一部損壊	年額500円で補修等に25万円 (損害割合10%以上20%未満)

フェニックス共済(兵庫県住宅再建共済制度)は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、兵庫県が創設して運営している制度です。地震、豪雨など、自然災害で住宅が損壊したとき、再建を支援します。

そうだ フェニックスがあった